

## 沿革

### 新得畜産試験場

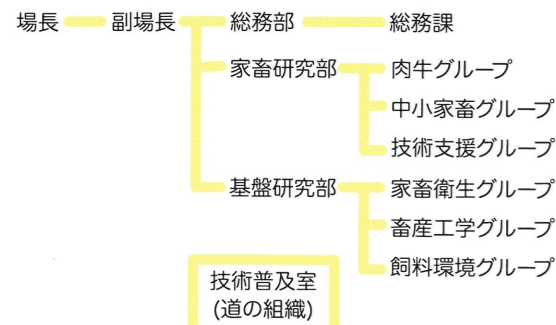
明治9年 北海道開拓使によって札幌の真駒内に  
(1876) 牧牛場として発足  
昭和22年 新得町に移転し北海道立新得種畜場と  
(1947) 改称  
昭和37年 北海道立新得畜産試験場に改組  
(1962)  
平成12年 新得畜産試験場と滝川畜産試験場を統合し北海道立畜産試験場として発足  
(2000)  
平成22年 地方独立行政法人北海道立総合研究機構が設立され、農業研究本部畜産試験場となる  
(2010)

### 滝川畜産試験場

明治39年 農商務省の月寒種牛牧場滝川用地  
(1906) として設置  
大正7年 農商務省直轄の滝川種羊場として  
(1918) 発足  
昭和37年 北海道立滝川畜産試験場に改組  
(1962)

## 概要

### 組織機構



### 飼養家畜

乳用種	69頭
肉用種	591頭
豚	201頭
鶏	1,723羽
めん羊	282頭
馬(北海道和種)	20頭

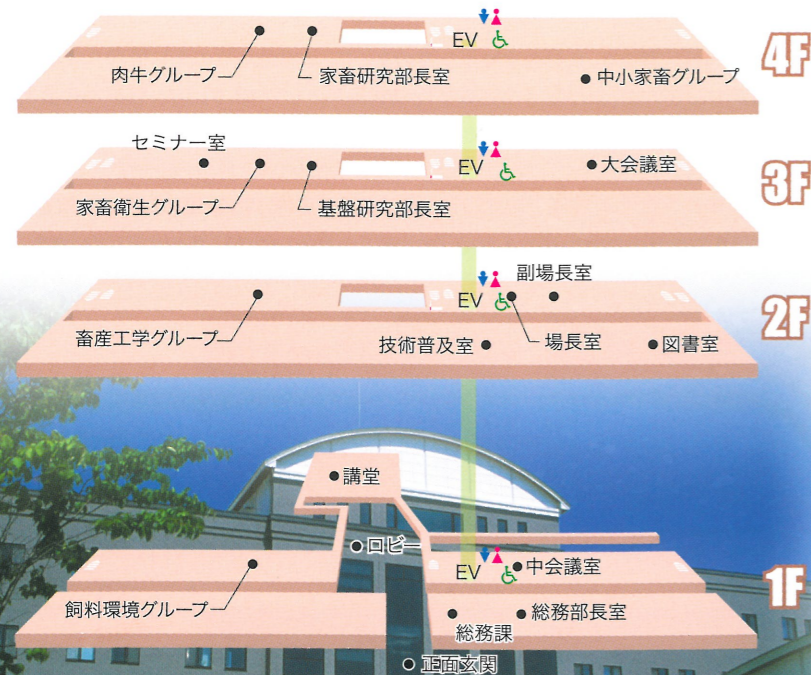
### 用地 (ha)

建物敷地	28
試験圃場	12
放牧地	380
採草地	393
山地その他	760
計	1,573

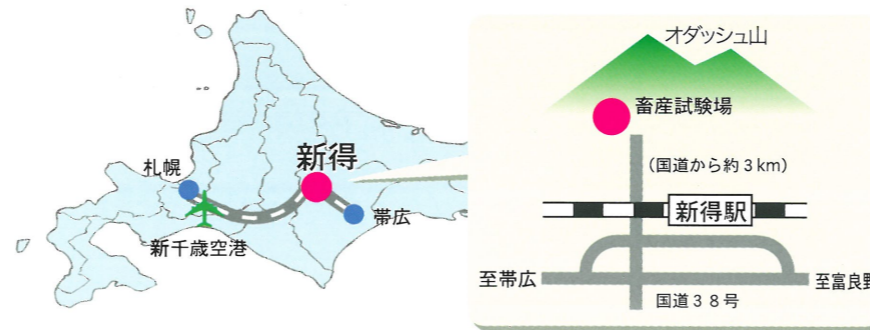
### 職員(平成24年10月現在)

総数： 103人  
(技術普及課在籍者2名を含む)  
うち研究職： 40人

## 庁舎案内



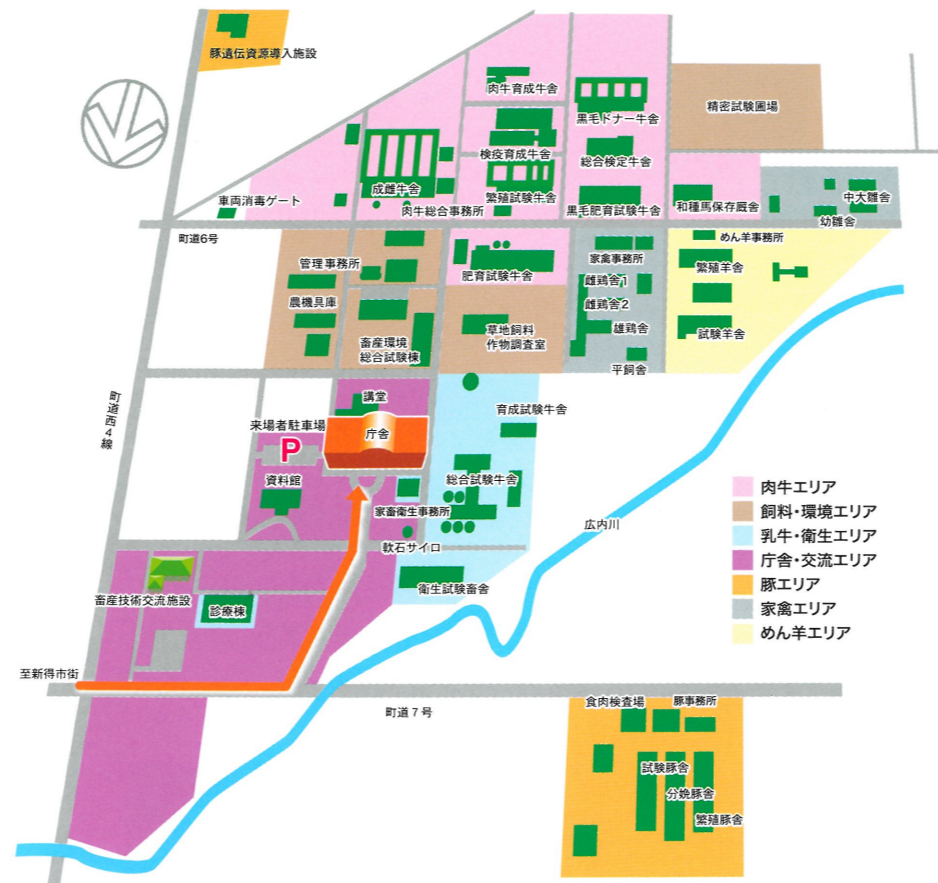
## 来場案内



鉄道を利用 (JR石勝線、根室本線)  
札幌駅から新得駅まで、特急で約2時間  
帯広駅から新得駅まで、特急で約30分  
(新得駅からタクシーで10分)

自動車を利用  
札幌市内から、道央自動車道および道東自動車道経由で約3時間  
帯広市内から、国道38号経由で約1時間

## 施設配置図



## 北海道立総合研究機構農業研究本部畜産試験場

〒081-0038 北海道 上川郡新得町字新得西5線39番地1

TEL: 肉牛グループ 0156-64-0606  
中小家畜グループ 0156-64-0611  
技術支援グループ 0156-64-0624  
家畜衛生グループ 0156-64-0614  
畜産工学グループ 0156-64-0617  
飼料環境グループ 0156-64-0620  
総務課 0156-64-5321

URL: <http://www.agri.hro.or.jp/sintoku/>  
E-mail: [animal-agri@hro.or.jp](mailto:animal-agri@hro.or.jp)



地方独立行政法人  
北海道立総合研究機構  
農業研究本部

# 畜産試験場

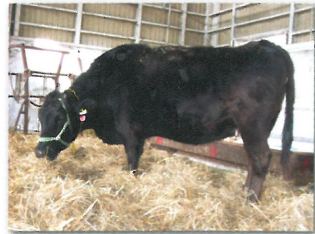




### 肉牛グループ

黒毛和種の育種改良を効率的に進めるため、フィールド成績による遺伝的能力評価やDNA情報を用いた選抜法について研究しています。研究成果は、道内の優良種雄牛や優良雌牛の作出にも活用されています。

黒毛和種の牛肉を効率的に生産する飼養管理技術(哺育・育成・肥育・繁殖)の開発に取り組んでいます。



黒毛和種の供卵牛



SNPチップによるDNA型判定



とうもろこしサイレージにより肥育した黒毛和種枝肉



牧草サイレージによる黒毛和種の育成



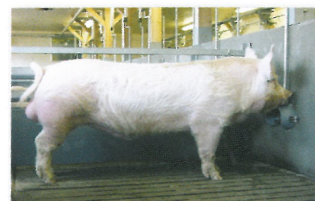
とうもろこしサイレージによる黒毛和種の肥育

### 中小家畜グループ

豚については、当場で造成した大ヨークシャー系統豚「ハマナスW2」の他系統との組合せ能力の評価と生産性向上のための飼養管理技術の開発に取り組んでいます。

鶏については、当場で開発した高品質肉鶏「北海地鶏II」の生産システムの開発に取り組んでいます。

羊については、生産を阻害する疾病(スクレイピー)に抵抗性を持つ羊群を増殖し、道内生産者へ供給しています。



大ヨークシャー系統豚「ハマナスW2」



F1交雑雌豚(ハマナスW2×ランドレース)と産子



三元交雑豚(ハマナスW2×ランドレース×メデュック)の豚肉



北海地鶏II



サフォーク種

### 技術普及室

技術普及室では、畜産試験場の技術支援グループが北海道の普及指導員と連携して、試験場の研究成果に基づく新たな技術の普及、および農業技術についてのコンサルティングを行っています。

また、行政・農業改良普及センターや関係機関と連携を図りながら、地域農業が直面する課題に迅速かつ的確に対応します。



超音波による肉質診断実習



サイレージ原料草の品質調査



JA職員への土作り現地研修



関係機関に向けた研修

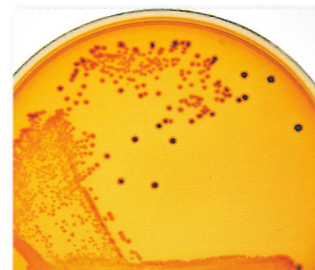


農業者に向けた草地管理とサイレージ調製の研修

### 家畜衛生グループ

家畜の生産性に大きく影響する疾病の病態を解明し、低コストで安全かつ高品質な畜産物を生産するため、疾病の早期診断法や疾病予防のための衛生管理法の開発に取り組んでいます。

主な研究テーマは、牛と豚のサルモネラ症や子牛の下痢症・呼吸器病の予防法、牛白血病ウイルスの伝播防止対策、豚呼吸器感染症の清浄化などです。



DHL寒天培地上のサルモネラの黒色コロニー



安全キャビネット内での病原細菌の検査



子牛の下痢症

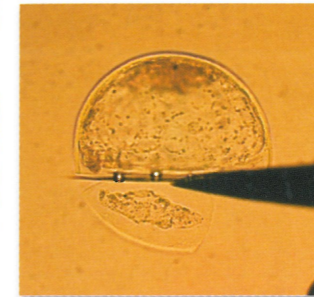


養豚場の感染症対策

### 畜産工学グループ

家畜の生産効率向上および遺伝的改良を目指し、受精卵移植、受精卵の凍結保存、雌雄産み分けおよび受胎着床に関する研究を行っています。

また、食の安全を支えるためにBSEプリオン感染実験をはじめとするBSE研究や遺伝子増幅法(LAMP法)などを用いた感染症の診断技術の開発を行っています。



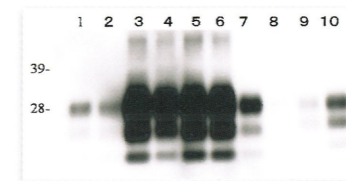
LAMP法による性別判別のために一部を切断した受精卵



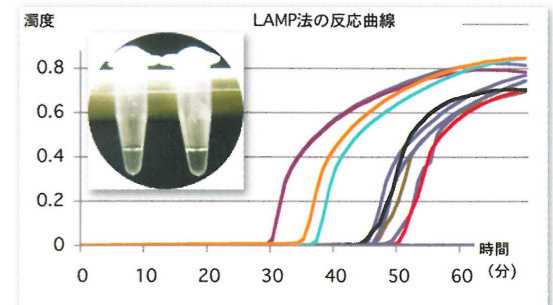
LAMP法による牛胚性別判別試薬キット



BSEプリオン実験感染牛によるBSE診断技術の研究



ウェスタンブロット法による異常プリオン蛋白質の検出



LAMP法を用いたヨーネ病の診断

### 飼料環境グループ

草地飼料分野では、良質自給飼料生産のために、地域適応性の高い飼料作物品種の選定や栽培方法、かび毒汚染低減技術の開発を行っています。また、粗飼料の品質評価法についての研究や近赤外分析による飼料成分の推定精度の向上に取り組んでいます。

畜産環境分野では、環境と調和した畜産の確立を目指して、家畜ふん尿から発生する環境負荷物質の低減技術や未利用バイオマスの有効利用技術等を研究しています。



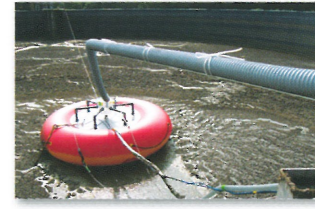
精密試験圃場



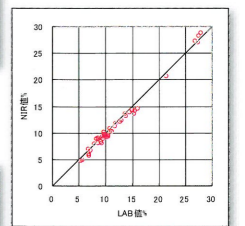
トウモロコシ試験の播種作業



トウモロコシ赤かび病の発病を助長させるための灌水処理



貯留スラリーから発生する温室効果ガスの測定



近赤外分析による飼料中粗蛋白質含量の推定